

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所

162-0805 東京都新宿区矢来町 65

電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175

発行者 総主事 司祭 相澤 牧人

威嚇の別名である平和ではなく  
正義と宥和と勇氣ある愛の行動によって  
築かれる平和

管区事務所総主事 ヨハネ 相澤 牧人

救い主イエス・キリストの降誕を覚え、その喜びの中に過ごす日々です。クリスマスおめでとうございます。

今、この時期に、世界の状況を見回して、クリスマスを迎える私たちが思うことは、「“平和の君” イエス・キリストの降誕」ということに心が引き寄せられてはいかないでしょうか。

「ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。その名は、…「平和の君」と唱えられる。」と預言者イザヤは語りました。(イザヤ9:5) 福音記者ヨハネは、「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。」と語りました。(ヨハネ1:14) これらのことを思い巡らしていますとき、ひとつの言葉に出会いました。

『神の到来によって、平和は天上におけるだけのものではなくなった。神は地上に平和を望まれた。神は、わたしたちが平和の道具となることを望んでおられる。その平和は、ますます多くの、そして、ますます「洗練された武器」によって保たれる平和ではない。世界中の貧しい者の犠牲の上に、日々その数を増やしていく武器によって保たれる平和ではない。威嚇の別名である平和ではなく、正義と宥和と勇氣ある愛の行動によって築かれる平和が、わたしたちの働きによってもたらされますように。』

これは、ドイツのロッテンブルグ・シュトゥットガルト教区司教であられたゲオルグ・モーザー師が語られた言葉です。「クリスマスに贈る100の言葉」より 女子パウロ会発行

この言葉は、クリスマスの意味を考え、生きるとき、大きなヒントを与えてくれるものではないでしょうか。平和の君が、私たちの間に宿る、すなわち、住まわれたということは、武器によって保たれる平和ではなく、私たちの働きによって平和を構築していくということ、その平和は、正義と宥和と愛の行動によってもたらされるものであるということなのだと教えられます。

## □会議・プログラム等予定

(前回報告以降追加  
および12月20日以降)

- 12月  
8日(水) 懲戒及び管区審判廷規則  
検討特別委員会中止  
21日(火) 渉外主査会
- 2011年
- 1月  
10日(月) 宣教協議会実行委員会  
12日(水) 広報主査会  
12日(水) 収益事業委員会  
12日(水) ~13日(木) 人権担当者会  
(名古屋)  
13日(木) 教役者給与調整デスク  
16日(日) ~17日(月) 青年担当者の  
集い(京都)  
17日(月) ウィリアムズ主教記念基金  
基金委員会(立教大学)  
18日(火) ~20日(木) 日韓聖公会協  
働委員会(ソウル)  
20日(木) 文書保管委員会  
20日(木) 教区間協働デスク  
24日(月) 第2回世界聖公会平和協  
議会実行委員会  
24日(月) 憲法法規委員会  
25日(火) 年金維持資金管理委員会  
26日(水) 主事会議  
31日(月) 礼拝委員会
- 2月  
2日(水) 宣教協議会実行委員会  
9日(水) 58-4 常議員会  
10日(金) (臨時) 主教会  
11日(土) 東京教区主教按手式・就任  
式(香蘭女学校)  
14日(月) ~15日(火) 正義と平和・  
憲法プロジェクト  
15日(火) 年金委員会  
15日(火) 主事会議  
22日(火) ~24日(木) 管区共通聖職  
試験  
22日(火) ~24日(木) (定期) 主教会  
(大阪)

(次頁へ続く)

### ★管区事務所冬期休業

12月30日(木) ~1月5日(水) の間休  
業いたします。よろしくお願いたします。

平和を語るときたびたび引用される聖句のひとつに、「彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。」(イザヤ2:4 降臨節第1主日の旧約日課)があります。これと同時に、そのすぐ前で「主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。」と言われていることも見落としてはならないでしょう。主は争いを裁き、戒められるのです。それゆえに、私たちは鋤にし、鎌にするのです。

イザヤは平和な状態を次のようにも語ります。「狼は子羊と共に宿り、豹は子山羊と共に伏す。乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ、幼子は蝮の巣に手を入れる。」(イザヤ11:6,8 降臨節2主日の旧約聖書) 相対立する敵となるもの同士が、傷つけあうことなく平和に過ごしている状態が来ることを示しています。狼と子羊が共にいても襲われない。子どもが蝮の巣に手を入れてもかまれない。このような状態がありえるのです。新しく変わるときが来るのです。

クリスマスを迎える準備の期節である降臨節

(前頁より)

<関係諸団体会議等>

1月20日(木)～22日(土) 外キ協連絡協議会(川崎)  
21日(金) 平和憲法推進プロジェクト  
25日(火)～31日(月) 首座主教会議(アイルランド ダブリン)  
28日(金) NCC常議員会



を、私たちは聖書のこれらのみ言葉に聴き、過ごしてきました。平和の君の誕生を思うとき、まさにこの状態の構築へと歩み続けることが私たちに求められているのだらうと思います。主よ、わたしをあなたの平和の道具としてください、と祈るアシジのフランシスの祈りも思い出されてきます。

クリスマス、その喜びと共に、私たち一人ひとりが主の平和の道具となって再び歩み続けてまいります。

## □常議員会

第58(定期) 総会后第3回 11月30日(火)

主な決議事項

- 2011年度大斎克己献金国内伝道強化プロジェクト選定の件  
国内伝道強化プロジェクト応援先を次のとおり決定した。  
「月島聖公会将来計画」(東京教区)  
(\*この計画が実現することにより、月島聖公会は初めて礼拝堂を有して活動できることになる。)
- 2011年度管区事務所職員給与の件(責任役員会決議)  
総主事より説明および提案を受け、承認。
- 2010年度管区一般会計収支予算承認の件(責任役員会決議)  
2010年度管区一般会計収支予算および補正予算案策定について、説明を受けて、承認。  
収支予算の結果、大きく補正する要因は見当たらず、法規第182条の規定に照らし、

## 公 示

救主降生2010年12月8日  
日本聖公会  
首座主教 ナタナエル植松 誠 ㊞

神のお許しがあれば、  
司祭 アンデレ大畑喜道の主教按手式ならびに日本聖公会東京教区主教就任式を下記のとおり執行いたします。  
主にある兄弟姉妹、ことに日本聖公会に属する聖職、信徒の代祷を求めます。

### 記

日時：2011年2月11日(金) 午後1時  
場所：香蘭女学校  
東京都品川区旗の台6丁目22-21  
司式：首座主教 ナタナエル植松 誠  
説教：主教 ヨハネ加藤博道  
(祭色は赤を用います)

以上

補正予算を組む必要なしと判断する。

4. 2011年度管区一般会計収支予想及び補正予算案策定について

以下の説明を受けて、承認。収支予想をした結果、経常勘定では、950千円の予算規模縮小、年金勘定では5,000千円の予算拡大となったが、法規第182条の規定に照らし、補正予算を組む必要なしと判断する。

次回以降の常議員会

2011年2月9日(火)、4月14日(木)

#### □主事会議

第58(定期)総会期第6回11月24日(水)

主な協議事項

- 2011年度大斎克己献金国内伝道強化計画に関して  
東京教区提出「月島聖公会将来計画」に内定。常議員会に提案することとした。
- 2010年度管区一般会計収支予想及び補正予算案策定に関して  
収支予想の結果、大きく補正する要因は見当たらず、法規第182条の規定に照らし、補正予算を組む必要なしと判断し、常議員会に提案することとした。
- 2011年度管区一般会計収支予想及び補正予算案策定に関して  
収支予想をした結果、経常勘定では、950千円の予算規模縮小、年金勘定では5,000千円の予算拡大となったが、法規第182条の規定に照らし、補正予算を組む必要なしと判断し、常議員会に提案することとした。
- 卓志雄司祭の海外出張について  
下記の出張について承認した。  
統一協会問題キリスト教連絡会「バチカン訪問」

#### 2010年教区会選出常置委員

北海道	聖職 信徒	大町信也(長) 石塚正史	下澤 昌 遠藤淳治	雨宮大朔 神谷順子
東北	聖職 信徒	八戸 功(長) 阿部禧典	中山 茂 長井 淳	長谷川清純 渡部和夫
北関東	聖職 信徒	斎藤英樹(長) 横川 浩	輿石 勇 谷川 誠	小野寺 達 菊池邦香
東京	聖職 信徒	笹森田鶴(長) 松田正人	下条裕章 黒澤圭子	前田良彦 松平健次
横浜	聖職 信徒	長野 睦 宮崎道忠	三原一男(長) 中林三平	河崎 望 佐藤尚敏
中部	聖職 信徒	野村 潔(長) 池住 圭	西原廉太 平部延幸	中尾志朗 牛島達夫
京都	聖職 信徒	黒田 裕 三木清樹	石塚秀司(長) 伊藤美佐子	池本則子 松本嘉一
大阪	聖職 信徒	岩城 聰 長野泰信	竹内信義(長) 畑野めぐみ	山本 眞 鈴木光子
神戸	聖職 信徒	芳我秀一(長) 松田嘉彦	上原信幸 宮永好章	小南 晃 大東康人
九州	聖職 信徒	堀尾憲孝(長) 外池圭二	中野准之 山本耕之	柴本孝夫 牛島康子
沖縄	聖職 信徒	上原榮正(長) 大倉信彦	戸塚鉄也 高峯初子	高良孝太郎 真喜屋 明

- ・ 日時:2011年1月24日(月)～29日(土)
- ・ 場所:バチカン市国
- ・ 目的:カルトの情報やそれへの対応に秀でているバチカン関係者に日本におけるカルト、特に統一協会の現状について説明し、今後情報交換が可能となることを目的とする。

※ただし、その後ローマ教皇の予定により、バチカン訪問は3月に延期となっている。

次回以降

12月16日(木)、2011年1月26日(水)

#### □訪問者

- ・ CCA(アジアキリスト教協議会)新総幹事 Rev. Dr. Henriette Hutabarat 10月28日に新任表敬。(NCC上田総幹事代行同伴)フタバラットさんは女性初のCCA総幹事で、インドネシア出身。アジア地域における自然災害のための対応の体制を充実させたい意向である。このためにCCAの緊急援助基

金を立ち上げることを企画している。今後管区としてはアジア地域の対応はCCAを活用することを考えていく。

パキスタン洪水(7月)の被災者のために関連団体に送金致しました。これに加えて受苦日の信施をエルサレム教区に送金致しました事を報告申し上げます。

(渉外主事 八幡眞也)



† 逝去者 霊魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭 イザヤ<sup>さくらい たか</sup> 櫻井 享 (東京教区、退職)

2010年12月6日(月) 逝去。(96歳)

.....

◎2010年に海外で発生した自然災害の被災者援助のために皆様から多くの献金をいただき本当に感謝しています。ハイチ大地震(1月)、チリ地震(2月)、中国青海省地震(4月)、

📖 出版物案内

- ・『2011年度 教会暦・日課表』  
2010年10月15日付発行 価300円(税込)
- ・『日本聖公会要覧 2008年-2010年』  
2010年11月1日付発行 価1260円(税込)  
\* 2011年1月末までに購入申込書にて「要覧」をご注文の場合は送料が無料です。

《人 事》

神戸

主教 アンデレ中村 豊	2011年3月31日付	呉信愛教会管理牧師の任を解く。
司祭 ヨシュア長田吉史	2011年4月1日付	呉信愛教会牧師に任命する。

京都

<信徒奉事者認可> (富山聖マリア教会)	2010年11月1日付 (任期1年) ピリポ廣瀬康夫
-------------------------	-------------------------------

横浜

サムエル北澤 洋	2010年10月29日付	日本聖公会聖職候補生に認可する。
----------	--------------	------------------

《教会・施設》

可児伝道所(中部)	Fax 新設	0574-58-0241(電話と共通)
西大和聖ペテロ教会(京都)	電話番号変更	(新) 0745-72-7346



Let us go to Bethlehem  
and see this event  
which the Lord has made  
known to us

Merry Christmas and a Happy New Year!!

## 韓国併合100年「和解と平和の旅」

### 韓国併合100年「和解と平和の旅」の報告

宣教主事 司祭パウロ中村 淳

11月12日から15日にかけて「旅」は行われました。最初に力一杯、神さまに感謝したいと思います。さらにご参加くださった皆様、受け止めてくださった大韓聖公会の皆様、わたしたちの旅を支えてくださった日韓双方の方々に感謝いたします。谷主教様を団長として、20代前半から80代半ばまでの参加者33名、スタッフとして6名の39名、同時に開催されていたTOPIK 3周年のシンポジウム参加者としてスタッフ3名、40名を超える規模の旅となりました。

現場に立っともう一度歴史を、現在を振り返ってみる、このことのために独立記念館を訪れ、カンファド江華島の江華歴史館を訪ね、カンファウツ江華邑教会の鐘・階段手すりを実際に見てみる、ことを行いました。また、大韓聖公会との関係を確認するためソウル大聖堂を訪れ、江華邑教会の創立110周年記念礼拝に参列し、温水里教会を訪ね、ウリマウル（ソウル教区運営の知的しょうがい者支援活動）を訪れました。

今回の旅の目的は、日本による韓国・朝鮮の強制併合から100年が経過する中において、一方では先輩方のこれまでのお働きにより、大韓聖公会と日本聖公会との関係は世界の各聖公会の中でもユニークと言われる関係性を持つことが出来、他方では様々な問題から日本と韓国の植民地・被植民地、加害・被害という関係が忘れられそうになっている、この二つの課題を少しでも前進・改善させるためのものであった、と改めて感じています。

独立記念館では晴天の土曜日と言うこともあったのでしょうか。多くの老若男女が訪れていました。先生に連れられた小学生たち、お父さんお母さんに連れられた幼児たち、それを見守るご高齢の方々、若い男女二人連れもいらっしゃいました。そのような中、小さなこどもに説明をしているお父さんの横に立つときに、ドキドキとし始めている自分があることを発見しました。6年ほど前に始めて訪れたときと比較すると、展示が少し変わっているのに気が付きました。日本語の説明が整理され、より細かく付けられていたように感じます。日本人にも見て欲しいという希望が現れているように感じました。

今回の「旅」の具体的な目的であった、江華邑教会の主日礼拝、創立110周年記念礼拝と階段手すり復元式への参加、手すり復元費用をお渡しするという任務は無事に完了することが出来ました。40名を超える日本からの出席者、江



独立記念館前での集合写真

華邑教会の信徒の方々、江華島の行政、議員の方々、多くの韓国マスコミ取材陣、日本からの取材者等で、大きくはない江華邑教会の聖堂は一杯でした。キム・グンサン ソウル教区主教様は説教の中で「歴史的な日である」とおっしゃいました。平和のあいさつでは参加者みんなが心から感動する、そのような時が与えられました。谷主教様はごあいさつの中で「今この時に、日本中の聖公会の教会がこの礼拝、和解のための小さなしとしとしての手すりの復元を感謝する礼拝を覚えて祈っている」と話されました。

あの礼拝の場での「和解」は実現していたのではないかと思います。それはそこに参加していたものすべての想い、謝罪・懺悔・憎しみ・赦罪、と言ったものが感謝へと昇華させられて、それぞれの感謝を神さまがつかないでくださったことによる、と思わざるを得ません。それぞれの想いが神さまの前で解き放たれて、その想いを神さまが受け止めてくださって、わたしたちをつなぎ合わせてくださった、と感じざるを得ません。その事による感激の涙を流した方々がたくさんいらっしゃいました。また、そのような神さまの場であることを感じた方がほとんどだったのではないのでしょうか。

このような時までに至る先輩方、長い時間をかけての和解への道筋を切り開いてくださった方々へ感謝をあらわさずにはいられません。旅の終了後、残ったスタッフはイ・ジェジョン神父と

夕食をご一緒しました。イ・ジェジョン神父は30数年前に江華邑教会でご奉仕なさっていたそうです。その頃から江華邑教会の階段手すりのことを日本からの訪問者にお話しなさっていたそうです。30数年経って日本からの献金による復元がなされたことに感慨を覚えておられてでした。

わたしたちと大韓聖公会、韓国との和解は成立したわけではありません。その途上にあるのです。和解へ向けての道筋を歩いています。その一つの通過点として今回の「旅」が与えられました。今回の旅の企画にも悩みがありました。和解という言葉は加害側が持ち出すべきではないのではないか、40名という人数が集まるだろうか。そのような不安は解消されました。わたしたちが事実を知り、痛みを覚えている「人」を知り、その人々のために心からの悔い改めを共感とともにあわす時、神さまはそれらの人々をつないでくださる、和解へと導いてくださる、と確信することが出来ました。今回、多くの想いを持っていらっしやう、お年を召された方が大半を占められた参加者でした。そのような想いにいたっていなかった若者たちも、現場を見、人に出会い、お年を召された方の姿を見て学び、同じ場に立つことが出来た、と感じています。わたしたちの和解の旅はまだ終わっていません。これからも多くの韓国、韓半島の方々との出会い、和解への道筋を一步一步たどっていきたく強く思わされた旅でした。

## 和解と平和の旅に参加して

・旅を締めくくった「出会い」

藤沢聖マルコ教会 夏目和世

この旅の頂点は無論、江華邑教会での聖餐式だった。旅の終わりに谷主教が述懐されたように、主イエスが真中におられたから完成された和解の時だった。式次第がほとんど同じだったから、懺悔にも祝福にもアーメンと心から唱和出来たし、主の平和を江華邑教会の方々と共に祈り

あえた。覚えたての韓国語、チュエピョナの発音はおそらく拙かったのに、どの方も力強い握手を返してくださった。そして何より、柳 時京司祭のお心尽くしで、金 根祥ソウル教区主教の説教が、日本語に訳されたものを手元に、同時通訳以上の正確さで読むことが出来た。特に、日本軍による痛ましい教会の歴史にふれられた後、その日の福音書(マタイ21:13)をひかれて、この「祈りの家」で、「日韓聖公会と一緒に祈った2010年11月14日は、より意味深い日として、後世に記憶されるでしょう」と語られた時、この

歴史的礼拝に参加できた光栄に心がふるえた。ここに到るまで、長い時を祈り働かれた、日韓双方の聖職、スタッフの方々に深く感謝いたします。

足腰の不具合から、皆様に追いつくのが精一杯で、一般の方々と触れ合うことがほとんど無かったことに心残りを禁じ得ないで旅が終わりを迎えようとしていた。日本語を強要された歴史をもつお国に、自分が片言の挨拶しか出来ないまま何うことが心苦しかったので、「韓国語が出来なくて申し訳ございません」とハングルで書いて頂いたカードを携帯していたが、使うチャンスは無かった。しかし、最後に訪れたカトリック明洞大聖堂で、不思議な出会いが与えられた。時間が迫っていて、超特急で十字架の道行きを巡りながら、旅のさまざまを思い起こしていた。聖堂を出ると、一人の老紳士が近寄ってこられ、「日本のクリスチャンの方ですか?」と話しかけられ、「戦争を挟んで20年間日本で暮らしまし

た。今は毎日この教会を訪れて祈り、とても幸せです。」と流暢な日本語だった。私はとっさのことで何も言えず、思わず深くお辞儀をして「申し訳ございませんでした」と謝った。「後ろを振り返るのは止めましょう。良い未来を考えましょう。」と言われた言葉が、旅の締めくくりとなった。これから自分にできる事を問う。



階段手すり復元の趣旨を記したプレートの除幕式

### 「和解と平和の旅」に参加して

・「多くの事実」を学んだ旅

京都聖ヨハネ教会 大隅 彩恵子

私にとって、初めての韓国での旅に於いて、強い衝撃を受けました。

今、日本への韓国人留学生は多くいます。また、韓国人俳優や歌手の日本での人気は高いです。なので、今、日本と韓国の関係は悪くないと思っていました。が、日本には、きちんと償わなければならない過去があることを知りました。

私は、今回訪れた江華教会での出来事は全く知りませんでした。当時の日本軍は相手のことを一切考えず、自分たちの都合で手すりと鐘を奪っていきました。それは、変えようのない事実です。それを私は行くまで知りませんでした。その事実に大変驚きました。

しかし、それ以上に驚いたのは、そのような

事実がありながら、今回、私たちを招いてくださったソウル教区、江華教会の人々の心の広さです。もし、私が韓国人の立場だったら、非常に許しがたいことです。しかし、それを江華教会の方々は“感謝”という言葉で以て、迎えてくれました。これにはとても感激しました。本来は、日本人が懺悔しなければならないのです。それは、当然の償いです。しかし、韓国の方々は“感謝”と仰ってくださいました。その言葉にこそ、われわれ日本人は“感謝”しなければいけないと思います。

また、独立記念館でのモニュメントにも衝撃を受けました。日本人が繰り返した酷すぎる弾圧と虐殺。私は同じ日本人として、考えられませんでしたし、信じられませんでした。しかし、それは事実であり、韓国の人々の心に刻まれた深すぎる傷なのです。しかし、私が受けてきた学校教育では、そこまでのことを知りませんでした。私は、一辺からしか物事を捉えられていませ

んでした。日本人である私は、日本人が与えた韓国の方々への苦しみや痛みを全く知りませんでした。

私は、韓国について知らなければならない事実が、多くあると感じました。教科書では、たった1行で済まされている「三・一独立運動」も、その時の韓国の方々の思いは計り知れなかったと思います。

そのような過去を持つ日本人は、多くの事実を知るべきです。そして、きちんと反省をするべきです。今回の旅で、自分の無知さを思い知らされました。今後、韓国に対する反省と共に、世界を平和に導いていける行いができるように努

力していきたいと考えています。



設置予定の実物の手すり

## □ 正義と平和委員会から ③ ----

2011年日本聖公会 沖縄週間

「沖縄の旅」予告

2011年度沖縄週間「沖縄の旅」(主催:日本聖公会沖縄教区宣教部・日本聖公会正義と平和委員会)の予告を致します。日程は2011年6月17日(土)から20日(月)、主題は「命<sup>ぬち</sup>どう宝 ~基地・経済・いのち」です。

私は沖縄でのフィールドスタディを経験する度に、いつも浮かぶ聖句があります。「被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っています。」(ローマ8:22)のみ言葉です。基地の存在、戦争によって人間だけではありません、被造物のすべてが傷つき、うめき、苦悩の叫び声をあげています。そして平和を求める人々が、産みの苦しみを味わっています。こ

の旅は、日本聖公会に連なる私たちが、沖縄の叫び声に思いを寄せ、沖縄の歴史や現在を学び、私たち自身が「主の平和」を求めて祈り、平和の実現のために一步を踏み出すことを目的として、毎年行われてきました。

今回は、準備会での話し合いを通して、沖縄にある「基地」の現状や問題に焦点を当てることにしました。また、話し合いの中で、基地と沖縄の人々との様々なつながりの中から生じるお金や経済の問題があり、経済活動を裏付ける存在としての基地という捉え方があるとの指摘がありました。このことも重要な視点と捉え、副題は「基地・経済・いのち」としました。フィールドスタディでは、1日目は基地コース、2日目は戦跡コースとし、また2日目は初参加用とリピーター用のコースを用意します。一人でも多くの方が参加くださることを期待しております。

日本聖公会正義と平和委員会  
沖縄担当 司祭 磯 晴久

日本聖公会管区事務所ホームページ: <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメールでお寄せください。

comm-sec.po@nskk.org 広報主事(鈴木)宛て

✻

✻ ✻ ✻